

# 船舶事故調査報告書

平成31年4月17日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成30年11月11日 14時30分ごろ
発生場所	愛媛県松山市釣島 <sup>つる</sup> 北方沖 釣島灯台から真方位001° 270m付近 (概位 北緯33° 53.7′ 東経132° 38.3′)
事故の概要	プレジャーボート <sup>いっこう</sup> ー幸丸は、南東進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成30年12月14日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート ー幸丸、3.6トン EH3-24200（漁船登録番号）、個人所有 第281-29381号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	プロペラ翼に欠損、舵に割損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風速 約3.2m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期、潮高 約173cm
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、GPSプロッターを作動させ、南東進中、船長が、釣島北岸付近に浅所が存在することを知っていたものの、友人と通話していたところ、浅所に乗り揚げた。 本船の喫水は、船首約1.0m、船尾約1.9mであった。
分析	本船は、南東進中、船長が、釣島北岸付近に浅所が存在することを知っていたものの、友人と通話していて船位の確認を適切に行わずに航行したことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、南東進中、船長が、釣島北岸付近に浅所が存在することを知っていたものの、友人と通話していて船位の確認を適切に行わずに航行したため、浅所に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・航行中は、操船に専念し、GPSプロッター等で船位の確認を適切に行うこと。